

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796000079		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター津久野		
所在地	堺市堺区神石市之町16番25号 FOCTファーストビル		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスとして住み慣れた地元から入居されている方が多いグループホームです。地域の病院や老人保健施設、居宅支援事業所、町内会との連携を常に図りながら運営しています。昨年は定年退職等で職員が大幅に入れ替わりましたがそれによってホームの雰囲気は乱れることなく職員全員が協力して「自分の家族を入居させたい施設作り」を目指しています。フロア内で飼っているセラピー犬もホームの一員として入居者の皆さんに癒しを提供しています。同じ建物の1階にクリニック、2階にデイサービスがあり、健康管理や認知症状の改善には良い環境が整っています。利用者の状態は終末期を迎えている方、在宅復帰を目指している方等、向かうところは様々ですが個々の目標に沿った介護を実践しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2796000079&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年1月25日

当該ホームはデイサービスが併設されており、イベント時には地域の利用者と交流を図っています。1階にはクリニックが開業しており夜間対応も可能で医療体制も整えられています。また近隣の入居者が多く地域と共に利用者を支えるべく2ヶ月に1回地域交流会を開催しています。映画鑑賞に始まり福祉用具の展示、介護相談会、ランチバイキング等を行い地域住民との交流を深めています。またホームの傍を流れる川の氾濫時には地域住民の避難場所になるなど、地域との協力体制が構築されつつあります。若い職員も多く形にとらわれない支援と、今までの経験豊かな職員の支援がうまく融合され、利用者それぞれの思いに沿った支援に向けて取り組まれています。身体拘束については職員全員にテキストを配布し試験を導入した独自の研修体制が整えられ、ケアに活かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の他にホーム独自の理念をつくり実践している。「自分の家族を入居させたい施設作り」	会社の経営理念は毎朝唱和しており、事業所独自の理念は事務所、廊下に掲示しています。また理念が職員全体に浸透するようミーティングや各種会議の中で意見を出し合い、理念に沿ったケアが出来るよう振り返り、確認を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会を2ヶ月毎に開催し地域で暮らしておられる方々との繋がりを深めている。映画鑑賞会、ニチイまつり、ランチバイキング等	毎日の散歩時に近隣の方と挨拶を交わし馴染みの関係ができ、花などを頂いています。自治会には入会していませんが、ホームの行事案内等は地域の回覧板を利用して知らせています。ニチイ祭りや地域交流会を2カ月に1回開催し映画鑑賞や福祉用具の展示、介護相談等を行い地域住民との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会で介護相談会や福祉用具を紹介する時間を設けて個別相談に応じている。また災害時には緊急避難先として事業所建物利用を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回活発な意見交換が行われ委員それぞれの立場から評価やアドバイスを頂いている。上記、地域交流会も運営推進会議で提案された取り組みである。	運営推進会議は民生委員、家族、薬剤師、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月に1回開催しています。状況報告を行い参加者からは多くの提案がなされサービスの向上に繋げるなど、有意義な会議となっています。地域交流会も会議での提案により発足したものです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回行政から参加いただき貴重な情報やアドバイスを頂いている。	ホームでの生活状況をパネルにし市役所ロビーに展示したり、社会福祉協議会、地域包括支援センター等が行っている啓発活動の一環としてブースの一角にパンフレットを置いたり、認知症の方への接し方を説明する等、行政と協力をしながら地域住民に情報を提供しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に当たるのかについて研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は法人の研修に参加し身体拘束についての理解を深めています。また職員全員にテキストを配布し合格点に満たない者は補習を受けるという試験を導入した法人独自の研修体制が整っています。玄関はセンサーを設置し開錠しており、拘束感を与えないよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月実施している業務ミーティングの年間計画の中に位置づけて身体拘束も含めて虐待防止が見過ごされないように研修している。		

ニチイケアセンター津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用者は居られないが必要な時には地域包括支援センターと連携し支援したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が納得されるまで契約内容及び重要事項について説明した上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接意見や要望を伺ったり本社から年に一度、顧客満足度に関するアンケート調査を実施しそれらをホームの運営に反映させるようにしている。	家族の面会時や電話等で要望や意見を聞くようにしています。また毎月ホームでの様子を郵送にて報告し、その返事と共に要望を聞くこともあります。出された意見等はミーティングで検討し、個々の状況に応じて対応し改善策を家族に伝えています。また法人全体の満足度調査を行い希望や意見を収集しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が個人面談する機会を設け意見や提案を聞くようにしている。	管理者は、不定期に個々の職員とのヒアリングの機会を設けたり、日頃から意見を出し易い環境を作っています。またキャリアアップ制度を導入し試験を受けたり、半期毎に話し合いの機会を設け意見を吸い上げ運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の処遇や職場環境は整備されつつあるが給与水準、人員面等で改善の余地はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全社的にOJTに取り組んでおり一人ひとりの職責や経験年数に応じた研修を実施している。社外研修にも積極的に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に毎月参加しネットワークを形成している。また他事業所の職員同士が交流できる機会を設けてネットワークを広げる活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を伺いそれに対してどのような支援が出来るのかを提案することで不安を軽減し、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って困っていること、不安なことを傾聴するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の状況を確認した上でサービスを選択できるようにインフォーマルも含めて多様なサービスを紹介している。見学、内覧にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物を干す、畳む等その人ができることを見極めながらホームの中で役割を担っていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族への手紙で本人の様子を伝えており家族の支援が必要な時は随時協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊が可能な方は家族とともに過ごす機会を持っていただいている。また併設のデイサービスのイベントに参加し地域の利用者との交流を図っている。	イベント時にデイサービス利用の友人と交流したり、散歩時に懐かしい場所を通ったり、馴染みのスーパーに買い物に行く等、利用者の昔の思い出を大切にしています。また年賀状や暑中見舞いの宛名書きを手伝う等、馴染みの関係が途切れないよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調の悪い利用者を気遣ったり、見守りの必要な利用者に声をかけたりする関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所後に死去された方の家族から葬儀等の相談を受けた際は遠方に住む家族を支援し情報の収集、提供を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の関わりの中で本人の思いや要望を把握するように努め、職員間で情報を共有し具体的な支援に繋げている。趣味や好物、カラーリング等	入居時に家族、利用者から思いや要望を聞き記録に残しています。日々の会話や関わりの中で行動や表情からも汲み取りながら、一人ひとりの思いを把握し申し送り時に伝え職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの充実に努め本人にも記憶を遡っていただきながら生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身状態は日々刻々変化しているので介護記録、申し送り等で情報を共有し適切な対応ができるようにしている。バイタル、排便状況、食事水分摂取量、不穏状態等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い一人ひとりの新たな生活課題を把握できるように努めている。ターミナルケア、在宅復帰など本人の現状に即した計画を作成している。	利用者、家族の意向やアセスメントを基に介護計画を作成しています。月に一度カンファレンスを行い、モニタリング、評価をしています。6ヶ月に一度、計画担当者、家族、利用者、職員の参加の下、サービス担当者会議を行い見直しをしています。必要に応じて、医師・看護師の意見を集約し現状に即した介護計画となるよう状況に応じて修正、変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には体調不良や不穏状態等の問題点ばかりではなく、改善されたことや新たな発見なども情報として記入し介護計画に反映させるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診医以外に定期通院が必要な方には家事代行サービスによる通院介助を紹介したり、車椅子対応の介護タクシーを手配するなど柔軟な支援を行っている。		

ニチイケアセンター津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の祭りの時にはホームの前をだんじりが曳航される時間を町内会が知らせてくださったり、PLの花火大会を屋上から見物して地域での暮らしを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時期により堺市中区のクリニックと事業所1階で開業しているクリニックがかかりつけ医として稼働しており体調の急変にも随時対応していただいている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いており、事業所に併設する1階の協力医に変更した方もあります。2週間に1回協力医の往診があり、24時間連絡可能で医療体制を整え利用者や家族の安心に繋がっています。訪問歯科医、精神科医も必要により往診してくれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があればその都度報告相談し必要に応じて主治医に伝え指示を仰いでいる。湿疹や浮腫み熱発など些細な変化も相談できる関係を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の馬場記念病院と日頃から連携を図っており、入退院が円滑にできるように医療連携室のMSWとの情報交換に努めている。病院主催の研修会にも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っており終末期に向けて家族、主治医との話し合いの機会を設け、それぞれの意向を確認し事業所でできることを説明している。必要に応じて葬儀まで含めた地域資源について情報を収集、提供している。	終末期の対応については入居時に説明し確認をしています。重度化した場合は主治医や家族と話し合いの機会を持ち、再確認し家族と協力しながら出来ること出来ないことを見極め、できるだけ希望に沿えるよう看取りの支援をしていく方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを用いて介護経験の浅い職員も慌てず行動できるように訓練している。食事時の喉詰りや居室での転倒事故も発生しているが適切に初期対応を行い大事には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い災害時に備えている。地元、石津川の氾濫時には地域住民の避難場所になる等、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署立会いの下、昼・夜間を想定した避難訓練を行っています。今後、地域に対して参加依頼の声を掛けをしていく予定です。ホームの傍を流れる石津川の氾濫時には、ホームの建物が地域住民の避難場所になるなど地域との協力体制が構築されつつあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修の中で高齢者の人格を尊重することや尊厳の保持を繰り返し学び徹底している。接遇マナーについてもOJTの中で学んでいる。	採用時研修でプライバシーに関する基本的なことについて学んでいます。また職員の全体研修や業務ミーティングにおいても話し合いを持ち、意識しながら日々のケアにあたっています。不適切な対応があれば、管理者やリーダーがその場で注意したり、職員同士で注意し合うこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課や献立、レクリエーションやテレビ番組など日常生活の様々な場面で自己選択、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての日課は決めているが一人ひとりの体調やその日の気分を考慮して過ごしていただくように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットの前には本人の希望を伺い適切なアドバイスも行っている。カラーリングを継続して楽しまれている方もある。外出時にはメイクや服装のコーディネートを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり準備や配膳、後片付けを協力して行っている。時々バイキングやお好み焼き等で趣を変えたり好きなものを出前注文して食べる楽しみを味わっていただいている。	利用者の食べたいものを聞きながら献立をたて一緒に食材を買いに出かけています。利用者に来る事を手伝ってもらいながら一緒に準備や後片付けをしていますが、食事は職員と別に食べています。月に2、3回出前を取ったり、時には外食をしたりしながら食事を楽しんでいます。	一緒に食事を摂られることにより食についての会話が多くなり料理の味付けなどの向上や、利用者の楽しみに繋がっていくのではないのでしょうか。その日の調理担当職員一人だけでも同席されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養、水分が無理なく摂取できるように献立やおやつに配慮している。腎機能が低下している方には生野菜や果物を控えたり食欲が低下している方には栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。訪問歯科も定期的に利用し治療が必要な場合には適時利用している。		

ニチイケアセンター津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として拒否や失敗があっても繰り返しトイレ誘導を行っている。尿意や便意が戻りおむつの使用を減らすことができた方もある。	トイレでの排泄を基本とし排泄チェック表を基に声掛け、誘導を行っています。夜間は2時間毎に声をかけポータブルトイレを使用している方もいます。紙パンツから布パンツに変更しパットを使用することでトイレで排泄出来るようになった例もあり、自立に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不穏、認知症状の進行を防ぐために個別に対応している。自然排便を促すためにヤクルトや食物繊維を摂るように心がけている。人により乳製品を摂ることで排便が促される方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが個々の体調や希望に配慮している。檜風呂を楽しんでいただくために檜チップを利用している。	浴室は檜風呂となっており檜チップも利用しながら香りを楽しんでもらっています。入浴日は月、火、木、金曜の週4回となり、内2回の入浴日を基本としていますが希望があれば毎日の入浴も可能です。拒否される場合は時間を変えたり声かけに工夫をして入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣により布団、ベッドを使用されている。必要な方には介護ベッドが利用できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のためチェックを徹底するとともに服薬による体調変化は即時主治医に報告し指示を仰いでいる。薬の増減、変更時は家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、掃除、調理で力を発揮していただいたりホームで飼っているセラピー犬の世話や季節に応じた植物の栽培等に役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の体力に応じて犬の散歩、スーパーでの買物、近隣の散歩ができるように支援している。面会時には家族との散歩も楽しまれている。	天気の良い日には散歩に出かけ、近所のスーパーに買物に行ったり近くの公園に出かけたりしています。歩いて行けない所への買物はタクシーを利用するなど、できるだけ外出の機会を増やし、外気に触れて刺激を受けられるような支援に努めています。	

ニチイケアセンター津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを個別に管理しており嗜好品の購入に使用している。本人が居室で所持すると紛失や盗難等トラブルの原因となるので事務所の金庫で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を家族宛に出せるよう支援している。家族からは感動とともに感謝の声をいただいている。電話は希望があれば随時利用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を利用した飾りつけで季節感を持っていただいている。温度、湿度、明るさには常時注意し快適な状態が保たれるように支援している。	リビングは明るく清潔感があり、キッチン是对面方式となっており料理の匂いが漂っています。壁には職員と一緒に作った季節ごとの飾りつけや写真等が貼られ、セラピー犬が飼われており利用者は癒されながら過ごしています。消臭剤の使用や加湿器、温度計を設置し空調管理も行い居心地のよい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫したり廊下の奥にソファを置いて個々の居場所を確保できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや写真、ご自身の作品などで飾るなど本人と相談しながら居心地の良い空間作りを支援している。	フローリングの床にベットを置いています、希望により布団を敷く事も出来ます。家で使い慣れた筆筒やテレビ、テーブルにソファ等が持ち込まれ、自分の作品の花飾りや、犬の縫いぐるみ、家族の写真等が飾られ、居心地良く暮らせるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の状態に応じてトイレに近い部屋、職員から見え易い席等、環境や生活動線に配慮している。		